



# ウトナイ湖通信

No.179

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

## トピックス

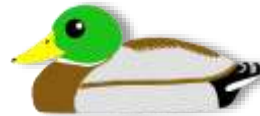
### ウトナイ湖野生鳥獣保護センター来館者100万人達成

平成14年に開設された当センターの来館者が3月20日、100万人に達しました。100万人目の来館者となった苫小牧市内在住の林享子さん、篤広君、亮吾君親子に野鳥図鑑などの記念品が贈られました。亮子さんは「春休みに入ったので遊びに来ました。今日は次男と三男を連れて来ましたが、雪がない時期は主人と長男が自転車で毎月のようにココに来ています。ウトナイの自然が大好きで、散歩がてらしょっちゅう来ています。地引網(ウトナイ湖漁業体験)にも参加しています。(100万人目なんて)もうびっくりです」とおっしゃっていました。



中央が林さんご家族

### 北へ向かう渡り鳥をウォッチング！



日本で冬を越していたガン・カモ類やハクチョウ類が繁殖地のロシアなどへ向かう季節。ウトナイ湖は渡りの途中に立ち寄る水鳥で賑わいます。

そんな鳥たちを観察しながら見送ろうと、3月17日に「春の渡り鳥ウォッチング」を開催し、23名の皆さんに参加いただきました。

まず、室内で渡り鳥について簡単なレクチャーをした後、完成間近の展望施設を横に見ながら、「道の駅」前の湖岸へ。広々としたところで、オナガガモなどを観察しました。次に「あずまや」「ハンノキのテラス」へと移動し、オオハクチョウ、さらにオオワシやオジロワシなどもウォッチング。最も人気を集めたのはヒドリガモで、オスの頭部が赤茶色で美しいことがその理由のようでした。

水鳥が去った後、4～5月にかけては、南方から夏鳥のアオジやキビタキなどが渡って来ます。美しい姿と声(さえずり)を楽しむイベントも計画中です。散策しながらの夏鳥ウォッチングに、どうぞご参加ください。



「道の駅」前でカモ類をウォッチング



小雪の舞う中「ハンノキのテラス」でウォッチング



レクチャールームでの「鳥あわせ」(まとめ)



キバシリ

【自然観察路情報】

2019年3月7日(木) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

マガン、コハクチョウ、オオハクチョウ、マガモ、オナガガモ、カワアイサ  
ダイサギ、トビ、オジロワシ、オオワシ、コゲラ、アカゲラ、ハシブトガラ  
シジュウカラ、エナガ(亜種シマエナガ)、ゴジュウカラ、キバシリ、ツグミ

《植物》

キハダ、ハンノキ(以上、実)、エゾニワトコ、キタコブシ、ホオノキ(以上、冬芽)  
バッコヤナギ、イヌコリヤナギ(すでに綿毛の芽が出る)、ハンノキ(開花前の雄花の穂)  
ナニワズ、フッキソウ(以上、緑の葉とつぼみ)

《ほ乳類・その他》

シマリス、キタキツネ?(足跡)、マイマイガ、オビカレハ(以上、卵)



エナガ



ツグミ



ナニワズ

【水鳥カウント調査結果】

2019年3月14日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 \* ( )内は個体数、(+)は以上、(±)は「前後」の意味

ヒシクイ(5)、マガン(83)、コブハクチョウ(4)、コハクチョウ(117±)、オオハクチョウ(26)  
オカヨシガモ(1)、ヨシガモ(42±)、ヒドリガモ(93+)、マガモ(92±)、コガモ(12±)  
オナガガモ(2902±)、ホオジログアモ(4)、ミコアイサ(32)、カワアイサ(13)、カワウ(16)  
ダイサギ(5)、シロカモメ(1)、トビ(2)、オジロワシ(5)、オオワシ(4)、種不明カモ類(100±)



オナガガモ



4月の自然予報

ハシブトガラなど1年を通じて観察できる野鳥のさえずりが聞かれる  
でしょう。キバシリがさえずるのは短い期間なので、お聞き逃しなく。

ヒバリやノビタキなどの夏鳥が南方から渡って来ます。ウグイスの  
さえずりが聞かれるのは上旬からでしょう。

水鳥は次第に数が少なくなります。時としてコハクチョウの大群が  
立ち寄ることもあります。

積雪が少なかったこともあり、黄色のナニワズや白いフッキソウの  
花は例年より早く、上旬から見られるでしょう。林で地面を探してくだ  
さい。

樹木では、キタコブシの白い花が開花します。対岸に大木があり、  
館内からも遠くに見えます。また、ハンノキの雄花が伸び、花粉を飛  
ばします。ご注意ください。

日だまりでは翅を広げたタテハチョウの仲間が見られるでしょう。  
成虫の姿で越冬していました。

エゾアカガエルの産卵期です。水たまりではグニャリとした卵塊  
や、オタマジャクシを見ることができるよう。

冬眠から目覚めたシマリスが自然観察路の木道などで見られるこ  
ともあります。



バッコヤナギの蜜を吸う夏鳥のメジロ



冬眠明けにひょっこり姿を見せたシマリス



こちらは翅を広げたシータテハ



【アオサギ】

大型の水鳥で、全身が青みを帯びた灰色。主に魚を補食します。樹上にも止まり、首を曲げて飛ぶため、間違われやすいツル類と見分けることができます。以前は夏鳥として春から秋にかけて見られましたが、最近ではウトナイ湖周辺でも冬を越しているようです。



\*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。あなたもウトナイ博士になれるのかも。

Q. 春に産卵期を迎えるエゾアカガエル。成体(カエル)を見かけることが多いのは、次のうち、どこでしょう。

- (あ) 川の中
- (い) 林の中
- (う) 湖の中



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

2019年 2月 16日 くもり

苫小牧市内の住宅の庭でうずくまっているところを発見、保護される

ヒシクイ



- 2月16日 当センターに搬入。左上腕骨の開放骨折を認めたため、直ちに止血・消毒し、抗生剤を投与。
- 2月17日 市内の動物病院で麻酔下にてピンニング手術を実施。
- 3月12日 術後2回目のレントゲン検査で、骨折部位の順調な接着を確認し、広めのケージへ移動。
- 3月26日 術後3回目のレントゲン検査を実施。近日中に手術で挿入したピンを抜き、リハビリを経てリリース予定。



ピンニング手術とは骨にピンを挿入して折れた骨同士を固定する方法のことです。

ヒシクイ（カモ目カモ科）

北海道には、越冬地の本州と繁殖地のロシアとの間を渡る途中に立ち寄ります。マガンよりもひと回り大きい大型のガンで、ウトナイ湖では3～4月と9月～11月に観察することができます。菱の実を食べることが和名の由来ですが、他にも水草や落ち穂などを採食します。嘴は黒く、先端付近が橙色で、足はオレンジ色をしています。国の天然記念物。

## イベント情報

### 春のウトナイ湖・ウォークラリー

日時：4月27日(土)～5月6日(月・祝振)  
10:00～16:00

定員：なし 対象：どなたでも

申込み：不要。当日随時受付

内容：約500mの自然観察路を歩いて一周しながら、途中のポイントに設置された春の自然に関するクイズに挑戦いただきます。ゴールでは答え合わせをし、参加賞をお渡しします。(解答用紙を持って、それぞれ自由に問題を解いていくイベントです)



### 第1回 野生動物に学ぶ救護セミナー

～知っているようで知らないカラスの話～

日時：4月27日(土)10:00～12:00

対象：高校生以上

定員：先着30名

申込み：4/2から前日まで

内容：カラスの生態とこれから迎える繁殖期について、講師の中村真樹子さん(NPO法人札幌カラス研究会主宰)からお話を伺います。



## 市民ギャラリー

### 「第16回 野鳥展」写真展

日時：4月27日(土)～5月26日(日)

展示：笠水上 徹明さん

### 「木工展 ウッドターニング・ホウトルニング」

日時：4月21日(日)～5月19日(日)

展示：金子 進さん

## お知らせ

### 大型連休(GW)期間中の開館について

☆ 4月27日(土)～5月6日(月・祝振)のGW期間中は休まず開館いたします。

☆ 5月7日(火)・8日(水)は閉館となります。



### ◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

### ◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

### 【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

